



第1回地域学校協働活動推進員研修会

令和2年6月30日(火) 沖館市民センター10:00~11:30



6月30日(火)に地域学校協働活動推進員(昨年度までの「学校支援コーディネーター」。以下「推進員」。)の研修会を開催しました。今年度最初の研修会は、初任の推進員の皆さんを中心に20名の参加があり、新型コロナウイルス感染防止対策として参加者の皆さんの距離を確保し、マスク

着用の上で研修を進めました。推進員として長いキャリアを持つ出崎真里さんの知識と経験に基づいた講話は、参加者がこれから活動を進める際の貴重なアドバイスとなりました。特に、学校や地域の関係者に推進員の仕事を周知していく手立て、実際に配布したチラシを用いたボランティア募集の説明など、自らの実践に基づいたお話は、今年度推進員になった参加者にとって参考になることばかりでした。

研修の全体会終了後に、協働活動を進めていく中で感じている疑問や悩みを個別に相談する時間をとりました。また、パソコン操作や活動記録の記入方法について、事業担当者が実際にパソコン画面をお見せしながら説明するコーナーも設けました。たくさんの参加者が予定時間を超えて会場に残り、熱心に質問していました。

(講話の内容)
協働活動はじめの一步
・コーディネートの仕組
・コーディネートの実際
・ボランティア募集方法
・気に留めていること
・課題

昨年は初歩的な研修がなかったので事業の手引きを頼りに活動していた。「はじめの一步」のお話が聞けて良かった。

具体的なお話がとても良かった。



自己アピールが大事。名刺を作ろうと思いました。

出崎推進員の貴重な経験を聞いて有意義だった。今後の活動の勉強になった。

参加者の皆様からいただいたご意見やアンケート結果を今後の研修会の内容に生かし、より充実したものにしていきたいと考えています。

子どもの学びを支える地域と学校との協働体制 (地域学校協働活動)

新型コロナウイルス感染防止の休業措置が5月に解かれ、地域学校協働活動もそれに併せて開始されました。「図書室の環境整備」「読み聞かせ」「登下校の見守り」など、短い1学期の間にも、子どもたちのために様々な取組がなされたようです。2学期は9月に入っても真夏日が続く異例の暑さが続きましたが、市内の学校においてはニーズに対応した幅広い内容の協働活動がなされています。今回は、生徒の放課後の自主学習にかかわった浪岡中学校の活動を紹介します。

浪岡中学校の放課後学習支援（自主学習支援教室）

笹 弘道 校長先生の話

本年度より、職員玄関脇の会議室を放課後の自主学習用教室として開放しました。本校の経営方針である「学びに向かう生徒」を育てるため、是非とも必要であると考えたからです。6月から開設した放課後自主学習教室には、学年を問わず学習意欲のある生徒が、多い時には84名も来室しています。浪岡地区は学校運営協議会（CS）が設置されていますが、その会議で相談したところ、委員の方から学生ボランティアの申出をいただき、支援をお願いすることになりました。生徒には、この学生ボランティアの存在も大きなものとなっています。今後は地域の協力も募り、「学びに向かう生徒」を育てる放課後の自主学習活動を充実させていきたいと考えています。



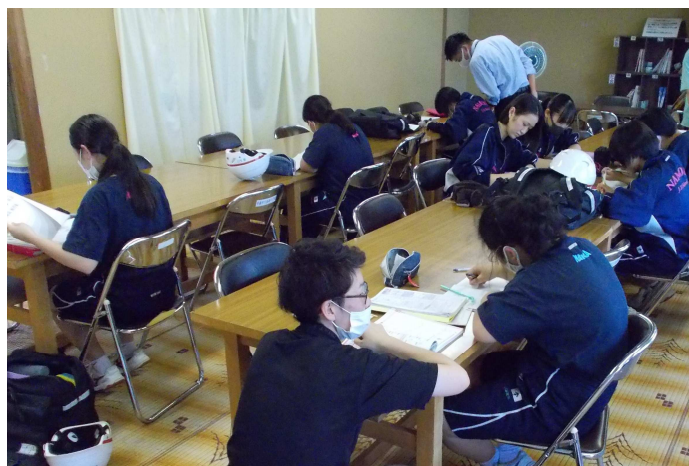
支援学生ボランティアの方の話

将来教職に就きたい思いもあり、時間があればここに来て、生徒たちに教えています。友達と一緒に笑顔で学習している様子や、親しく質問してくれる生徒の様子を見て、教えることの楽しさを感じます。

放課後学習中の生徒の話

帰宅して学習しても集中できないことがあるけど、ここではみんなが静かに学習している。だから集中して課題に取り組めるのでよく利用している。

友達と一緒にリラックスして学習できる。わからないところを大学生のボランティアの人や先生にすぐ質問できるのがとてもいい。



地域学校協働活動は、「放課後の学習活動」「社会奉仕・自然体験活動」「学校支援活動」から成り立っています。「放課後の学習活動」は小学校の放課後子ども教室ばかりでなく、他にも様々な形の支援がなされています。浪岡中学校の放課後自主学習教室は、地区の学校運営協議会での相談が起点となり、運営に際しては地域（学生）ボランティアが中心となって実現しました。校長先生を始め様々な方のお話を伺い、浪岡中学校のこの取組が地域の強い支援に支えられていることを強く感じました。